

## 序

国立大学は2004年度に法人化され国立大学法人となりましたが、すでに4年が経過しました。筑波大学では、今後の教育・研究の発展をめざして、これまで様々な改革を進めてきました。この改革の波は、附属学校にも及んできております。国の財政難と若年齢層の減少により、附属学校も大変厳しい状況に置かれており、その存続を危ぶむ声もあります。このような中で、本校では、その存続と発展を図るため、独創的な教育・研究活動を展開し、学校の特色や存在意義を明確にする努力を続けています。

大学と同様に、附属学校でも中期目標の設定が義務づけられていますが、本校では、教育目標を、「社会のトップリーダーを育てる教育の実験的实践」として掲げ、中高一貫教育の特徴を生かして、生徒の能力をより一層向上させ、またトップリーダーとしての資質を高めるための教育内容の検討や教材開発を精力的に行ってきています。このため、本校では、教科ごとに、カリキュラムの内容等について日常的に論議し、教育の質の向上を図っています。また、全教員が、「カリキュラム開発と教育実践」、「入試や進路についての検討」、「教育支援システムの開発」などについて、様々な研究テーマを設定し、プロジェクト研究にも精力的に取り組んでいます。これらの研究については、大学との連携を強化するため、「連携小委員会」を設置して、大学からは、科学研究費や学内プロジェクト経費などによる支援を受けるとともに、多くの大学教員にもご協力・ご指導をいただいています。また、最近、地域との連携も促進するため、「筑駒アカデミア」を立ち上げ、同窓会の協力も得て、講演会やワークショップなどを開催し、本学の教育・研究成果の地域への還元も図っています。

さらに、本校では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）としての過去5年間の実績が高く評価され、2007年度に再指定され、さらに5年間継続することになりました。したがって、本年度から、これまでの研究課題「先駆的な科学者・技術者を育成するための中高一貫カリキュラム研究と教材開発」を、さらに発展させた新たな課題「国際社会で活躍する科学者・技術者を育成する中高一貫カリキュラム研究と教材開発—中高大院の連携を生かしたサイエンスコミュニケーション能力育成の開発」を設定し、全教科の教員が協力し意欲的に取り組んでいます。

このような研究成果は、毎年開催される教育研究会、校内研修会、さらには、全附連研究大会などの教育関係の研究会や学会で発表するとともに、本校では、様々な体裁の報告書として、広く社会に発信しております。本論集は、その報告書の1つとなっていますが、特に、各教科の研究成果を中心に纏めたものです。このような本校の研究成果が、関係各位の教育活動のご参考になることを願っています。また、今後の本校の研究活動の一層の深化のため、本論集について、ご批判やご指導をいただけましたら幸いです。

2008年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校  
校長 柿 嶋 眞